

# デジタル・アーカイブの紹介

さしがみ

## 「弘前藩家中差紙」について

弘前大学名誉教授・元附属図書館長 長谷川 成一

このたび、本学デジタルアーカイブ스에 登載された「弘前藩家中差紙」は、本館所蔵の小野文庫に収録されている資料です。同文庫には、他に「弘前藩女中差紙」もあり、一連の資料として、今後、同アーカイブスへの登載を予定しています。ここでは両資料について、その概要から紹介しましょう。

本館には、「弘前藩家中差紙 正徳5年(1715)正月～12月」が1冊、「同 享保16年(1731)正月～12月」が1冊、「弘前藩女中差紙」は宝暦6年(1756)5月～12月が1冊の計3冊があり、正徳5年の冊は虫損が著しいことから公開が困難なため、当冊から同アーカイブ스에 登載しました。

当資料は、18世紀の弘前藩家臣団ならびに奥方の召し抱え、<sup>おおかた</sup>相続、知行・俸禄下付に関する記録であり、藩士の名簿である分限帳や先祖の履歴を記録した由緒書を統合したような性格を持ちます。現在までのところ、弘前市立弘前図書館や人間文化研究機構 国文学研究資料館の弘前藩の各資料群にも確認されておらず、本館所蔵資料として広く学界に紹介する意義を有すると考えられます。

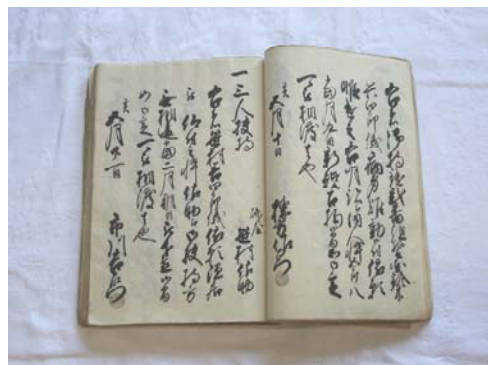


各差紙の表紙

資料的な価値については、次の2点を指摘しておきましょう。

第一に、本来、差紙とは、家督や跡目を相続して召直されたり、新たに召抱えられた際に、藩から藩士たちへ発給された一通の公的文書で、受領した各家臣の家でも大事に保管されてきました。一方、藩では差紙の写しを保管しておくか、もしくはこのように帳面に仕立てて記録・保存したようです。なかでも注目すべきは、差紙の控え、もしくは写しの性格を持つ本冊に、差紙を発給した役人に捺印させて、差紙原本と同様の実効性を持たせようとした点にあります。

第二に、本資料に登載されている記事は、前述のように、おおむね藩士の家督・跡目相続、任免関係事項ですが、宝暦期弘前城奥方の年寄から女中・乳持ちなどに至る、女中衆の加増・切米支給や任免関係記事が注目されます。弘前藩の最初の藩政改革である宝暦改革と奥方との関わりを見る上で、藩政史だけでなく女性史の資料としても貴重でしょう。さらに足軽等の下級士や在方の下級役人への切米支給や任免関係記事が詳細であり、これらは藩の公的記録である「弘前藩日記 御国日記」(弘前市立図書館弘前図書館蔵)を補うものとして注目されます。



享保16年差紙の内容

以上のような特徴から、本資料は18世紀初期から中期にかけて、弘前藩家臣たちの俸禄支給や任免などを総体的に把握できる点や、女性史や藩の地方行政の動向などを研究する上でも貴重な情報を提供しており、学界だけでなく多くの方々に広く活用されることを期待します。

(はせがわ せいいち)